

清田研究室

[東北地方太平洋沖地震による地盤災害]

生産技術研究所 基礎系部門

Department of Fundamental Engineering

<http://shake.iis.u-tokyo.ac.jp/GDM>

専門分野 地圏災害軽減工学

工学系研究科社会基盤学専攻

広範囲に及ぶ様々な地盤災害

Geo-disaster in wide-ranging areas of eastern Japan

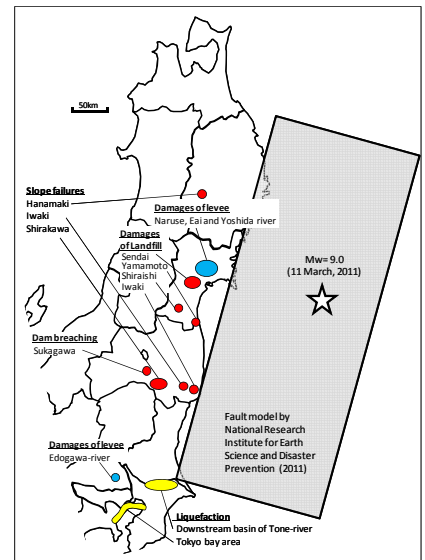
2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により巨大な津波が沿岸部を襲い、現在も事態が完全に把握できないほど大きな震災となった。また、関東地方から東北地方にかけての広い範囲で深刻な地盤災害が発生した。

臨海部および低地の埋立地を中心とした液状化、内陸部の住宅造成地の崩壊、河川海岸堤防・道路盛土の損傷、自然斜面の崩壊など、様々な地盤災害が広範囲に発生した。

これらの地盤災害を受け、今私たちは長引く余震、雨期の到来、近い将来来るべき異なる地震への対応、および適切な復旧・復興計画への対応に向けて、多くの課題を抱えている。



至る所で発生した液状化(浦安市)余震や将来の地震による再液状化の可能性はあるのか?



小長井/清田研究室が地震後約1ヶ月間(3/12-4/18)に実施した被害調査箇所



津波で決壊した海岸堤防(石巻市)地震後1ヶ月経っても復旧の余裕が無い



1978年宮城沖地震と同じ場所で崩壊した住宅地(仙台市)被災は盛土箇所に集中



液状化と津波により二重被災した道路(神栖市)高電圧ケーブル(6万4千ボルト)が剥き出しに



液状化により損傷した堤防(江合川左岸)被災箇所と周辺地形に密接な関係がある



大崩壊斜面下部の道路変状(いわき市)降雨時の余震による。斜面は風化堆積岩



藤沼貯水地のアースダムが決壊(須賀川市)地震後不安定化した堤体が沈下して越流→決壊に至った可能性